

2024年3月期決算説明資料

2024年5月

日本ケミコン株式会社

東証プライム 証券コード:6997

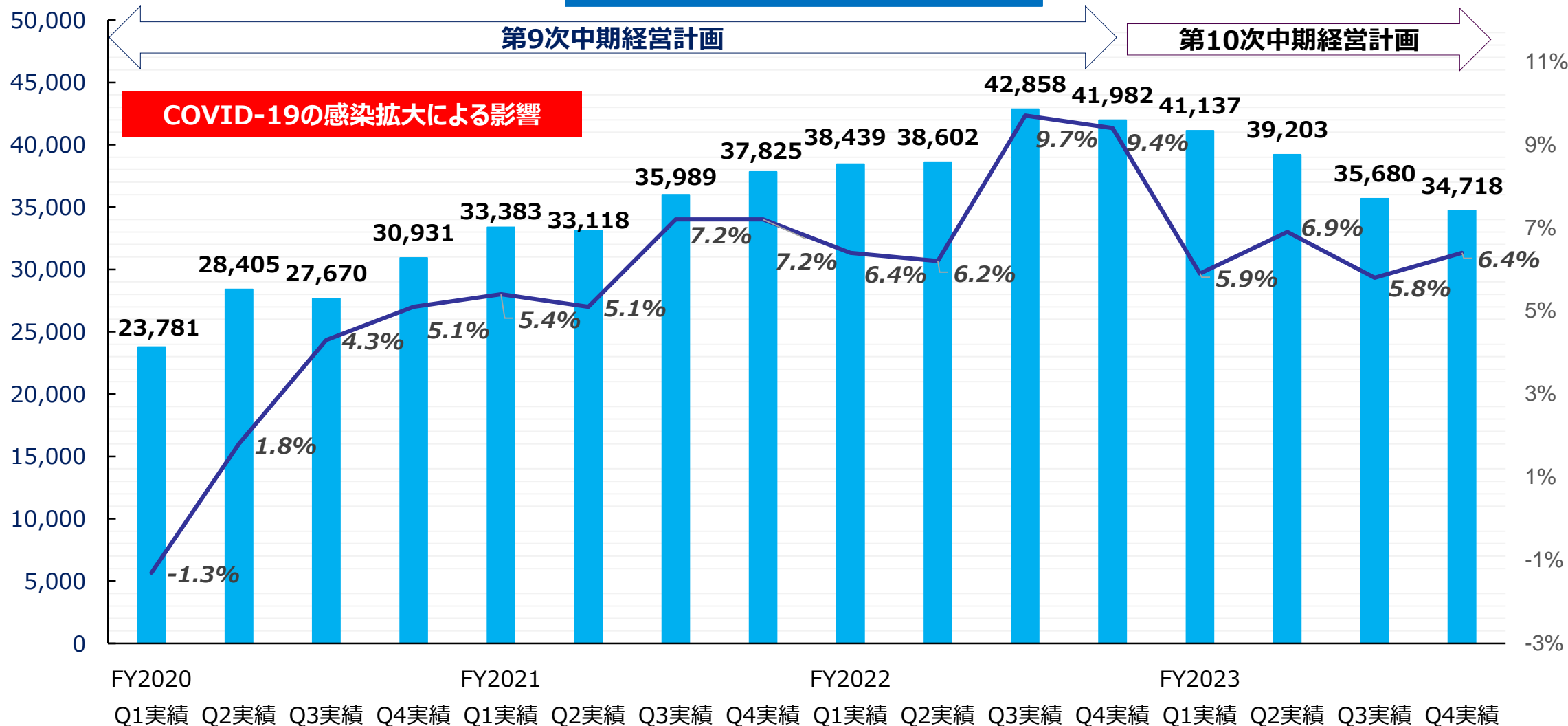
四半期別業績推移

売上高

単位：百万円

営業利益率(%)

売上高・営業利益率推移



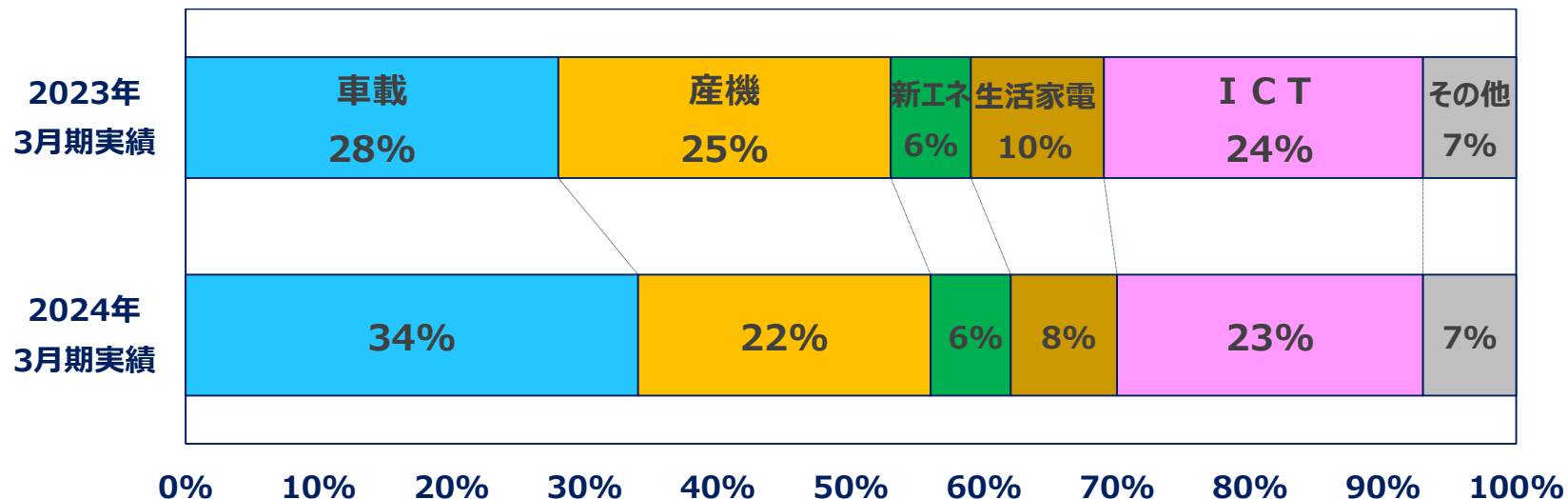
2024年3月期 連結業績概要

車載市場は回復し堅調な中、産機・ICT市場の低迷が長引き、減収減益に

単位：百万円	2023年3月期実績	2024年3月期実績	増減	増減率
売上高	161,881	150,740	-11,141	-6.9%
営業利益	12,939	9,422	-3,517	-27.2%
営業利益率	8.0%	6.3%	-1.7pt	-
当期純利益	2,273	-21,291	-23,564	-
※競争法特損除く	8,682	8,313	-369	-4.3%
ROE	4.8%	-41.2%	-46.0pt	-
為替レート				
対US\$（円）	135.47	144.62	6.8%円安	
対Euro（円）	140.97	156.80	11.2%円安	

2024年3月期 市場別・地域別推移

市場別売上構成比推移



好調な市場

車載

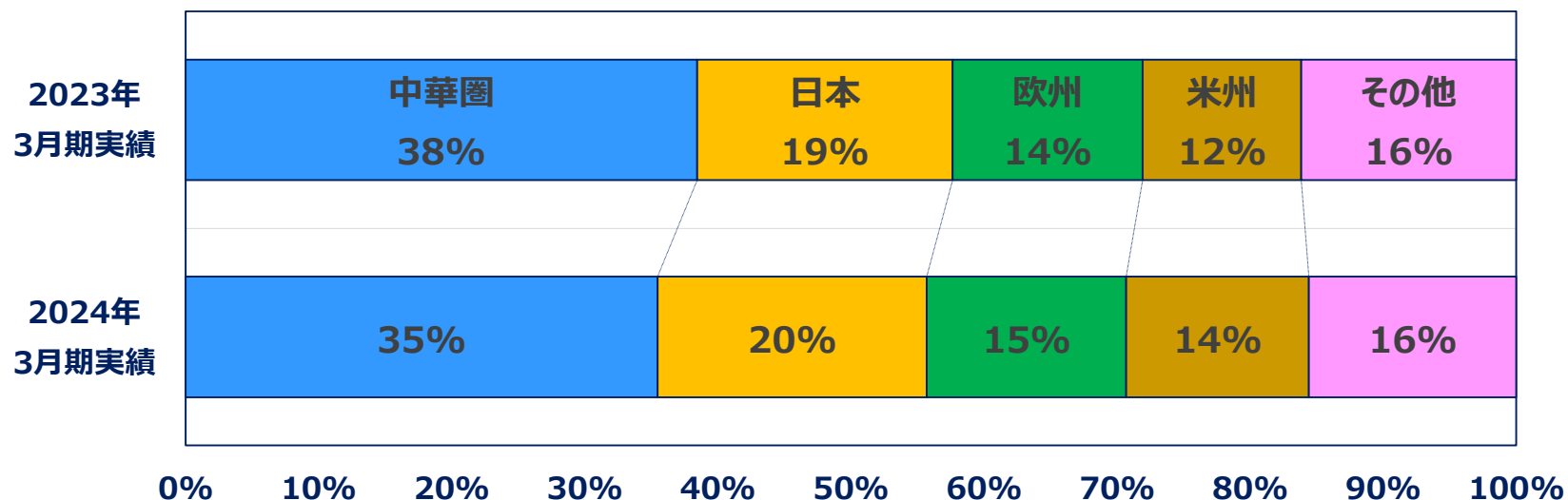
半導体供給の正常化と電装化進展による員数増加で堅調に推移

低調な市場

産機、ICT

需要減少に伴う在庫調整が継続

地域別売上構成比推移



好調な地域

米州

良好な家計状況と企業の設備投資により堅調さが継続

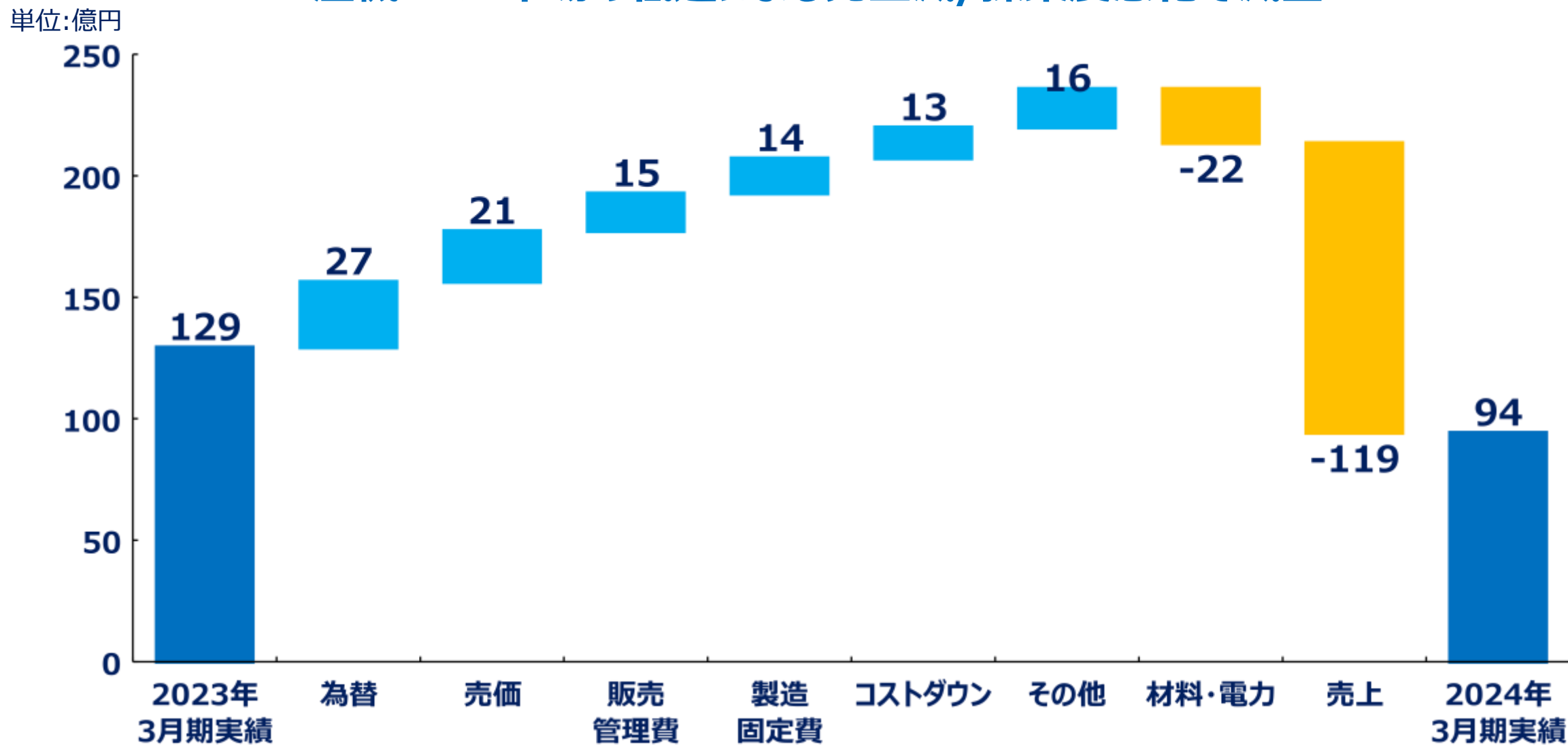
低調な地域

中華圏

産機、ICT市場の在庫調整が長引く

2024年3月期 営業利益増減分析

産機・ICT市場の低迷による売上減/ 操業度悪化で減益



2024年3月期 資本増強策について

資本性資金調達の実施

- 普通株式及び種類株式の第三者割当増資にて、総額174億円（普通株式24億円、種類株式150億円）の調達を実施。

資本性資金調達の目的

- ①当社の財務基盤の増強、②第10次中計で掲げる成長戦略推進のための資金の確保が今回資金調達の目的。

財務健全性及び成長投資の両立

財務健全性

1

- 純資産の増強**
 - 競争法関連損失で減少した自己資本の回復
 - 格付の維持・将来的な改善を目指す

2

- 安定的な資金繰り**
 - 大型訴訟費用支払い後の安定的な資金繰り
 - 経営環境の変化に対応するための流動性確保



成長投資※

3

- 第10次中計期間における設備投資**
 - ハイブリッドコンデンサ新工場建設
 - 箔の増産・研究開発…等

4

- DXの活用**
 - スマートファクトリーの推進、自動化による人員削減
 - SCMの高度化・効率化
 - 本部スタッフ生産性の改善…等

資本性資金調達の効果

- 資本増強により財務耐久力強化、信用力を下支え（R&I/JCR：2024年4月に現行格付BBB-の維持を公表）

（※）今回の資本性資金調達の資金使途の詳細は、2023年10月10日付「第三者割当による種類株式の発行、資本金及び資本準備金の額の減少、定款の一部変更、並びに種類株式の発行に係る資本金及び資本準備金の額の減少、並びに第三者割当による普通株式の発行に関するお知らせ」をご参照。

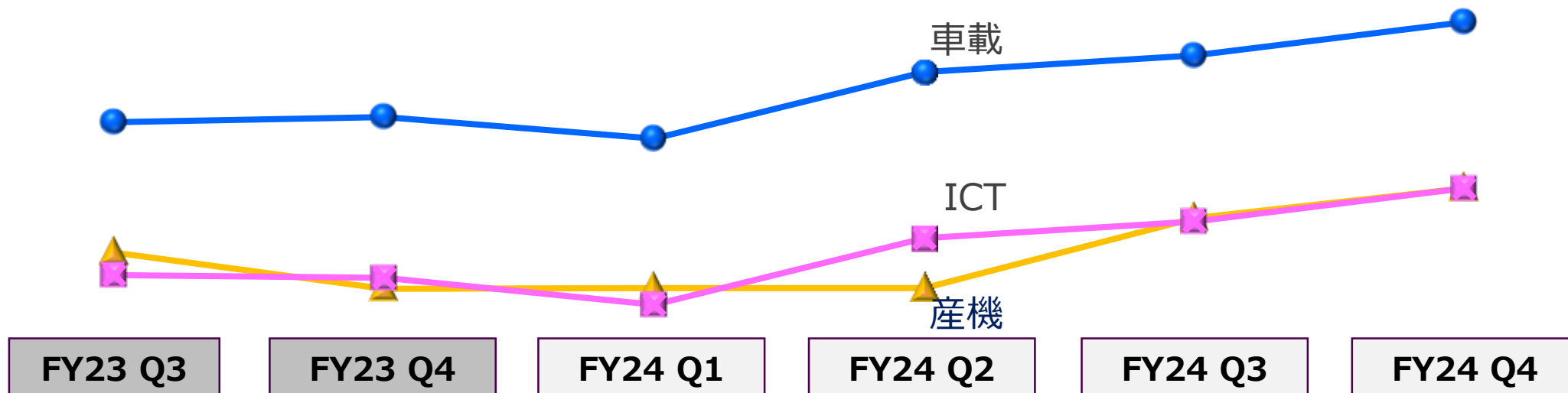
2025年3月期 連結業績見通し

2025年3月期は、産機とICT市場の在庫調整が上期終息し、下期以降に回復する見通し

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期				
	通期実績	上期計画	下期計画	通期計画	増減	増減率
売上高	150,740	66,500	86,500	153,000	+2,259	+1.5%
営業利益	9,422	3,200	8,300	11,500	+2,077	+22.0%
営業利益率	6.3%	4.8%	9.6%	7.5%	+1.2pt	-
当期純利益	-21,291	1,600	5,800	7,400	+28,691	-
ROE	-41.2%	3.0%	-	13.0%	+54.2pt	-
為替レート						
対US\$（円）	144.62	145.00	145.00	145.00	0.3%円安	
対Euro（円）	156.80	158.00	158.00	158.00	0.8%円安	

足元の事業環境と2025年3月期見通し（市場回復のイメージ）

【市場別売上高予想】



市場見通し

車載

半導体供給とBCP在庫の正常化

電装化、電子化の進展による使用数の増加

産業機器

中国経済の低迷等で在庫調整長引く

半導体・省人化投資増加

ICT

PC在庫調整終息

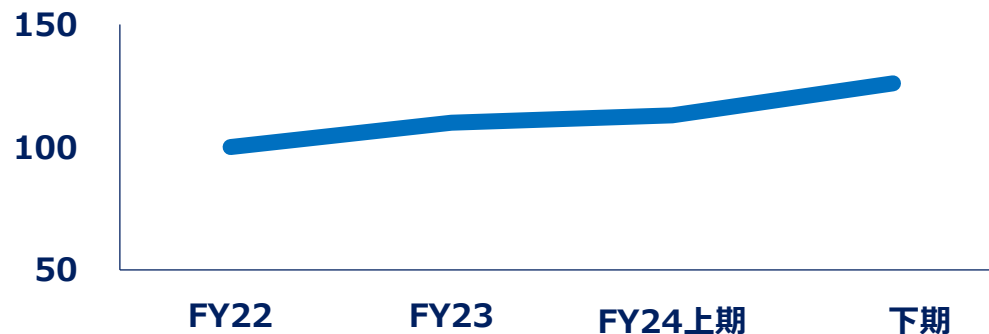
従来型サーバの回復・A Iサーバは急増が続く

市場概要 2025年3月期の主要3市場：車載は継続して好調、産機及びICTは回復局面に転じる見通し

車載



【 INDEX FY2022を100とする 】

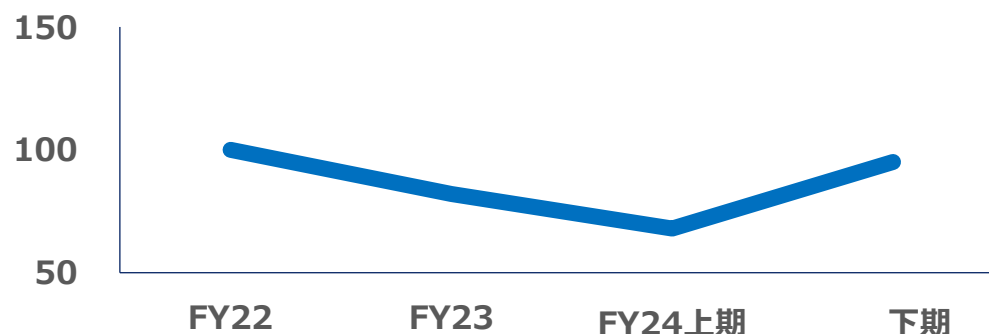


- ・2024年の自動車台数は前年比3%増加
89百万台見通し
- ・電装化、電子化進展
自動車1台当たり搭載数7%増加見通し

産業機器



【 INDEX FY2022を100とする 】

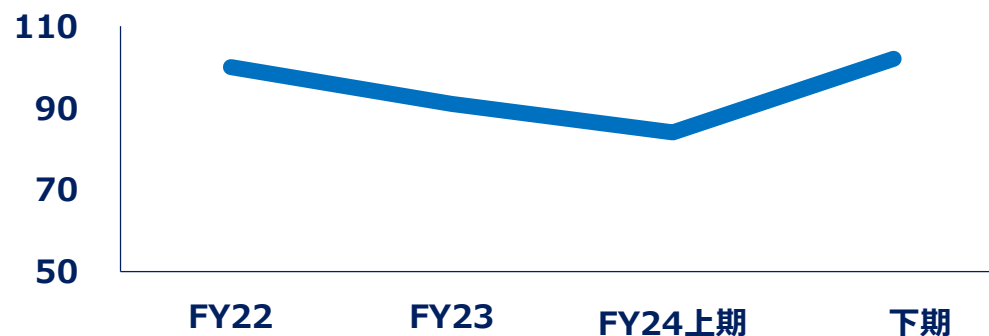


- ・回復のサイクルが長引いたが、2024年度
下期には回復の見通し
- ・半導体や省人化投資の動きが活発化

ICT



【 INDEX FY2022を100とする 】

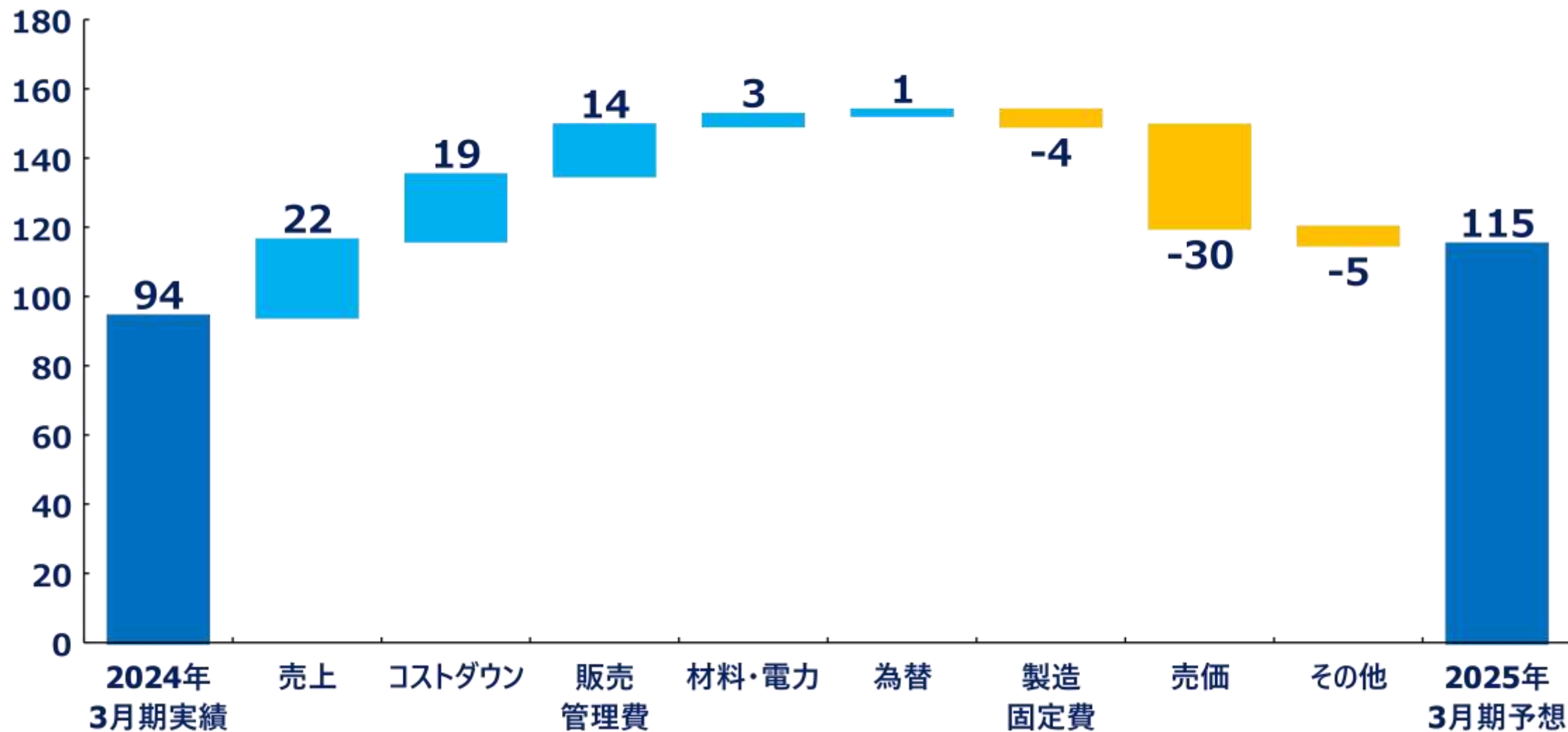


- ・パソコン
在庫調整が終息し、Q2から回復の見通し
- ・サーバー
生成A Iサーバーの急成長は継続
従来型サーバーは、Q2以降回復へ

2025年3月期 営業利益増減分析

産機・ICT市場の回復による売上増とコストダウン、販管費削減で増益予想

単位:億円

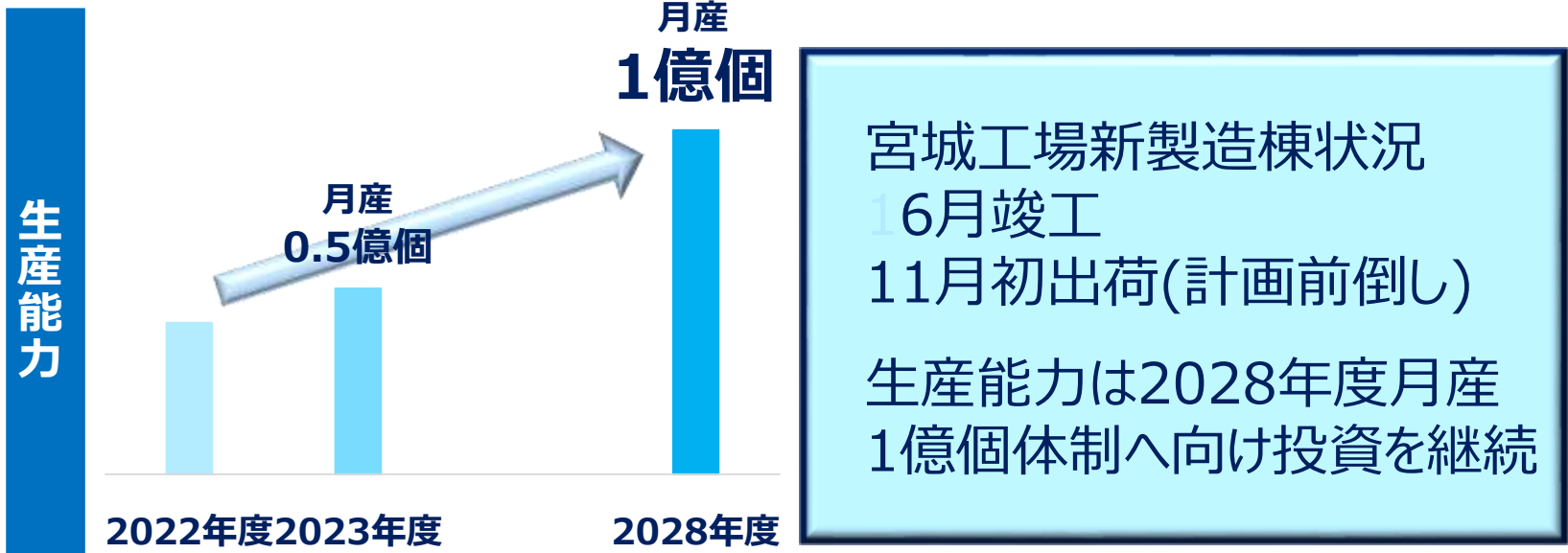


第10次中期経営計画 成長戦略：資金調達の具体的な使途

- ・10次中計における重要施策である「ハイブリッドコンデンサ事業の設備投資」、「スマートファクトリー化の設備投資」「研究開発関連投資」を中心に使用。

	種類株式分	普通株式分
導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサ事業の設備投資	7,899 百万円	2,374 百万円
工場のスマートファクトリー化のための設備投資	4,443 百万円	—
研究開発関連投資	2,468 百万円	—
支出（予定）時期	2023年4月～2026年3月	2023年12月～2026年3月

第10次中期経営計画 成長戦略：ハイブリッドコンデンサ増産体制の確立



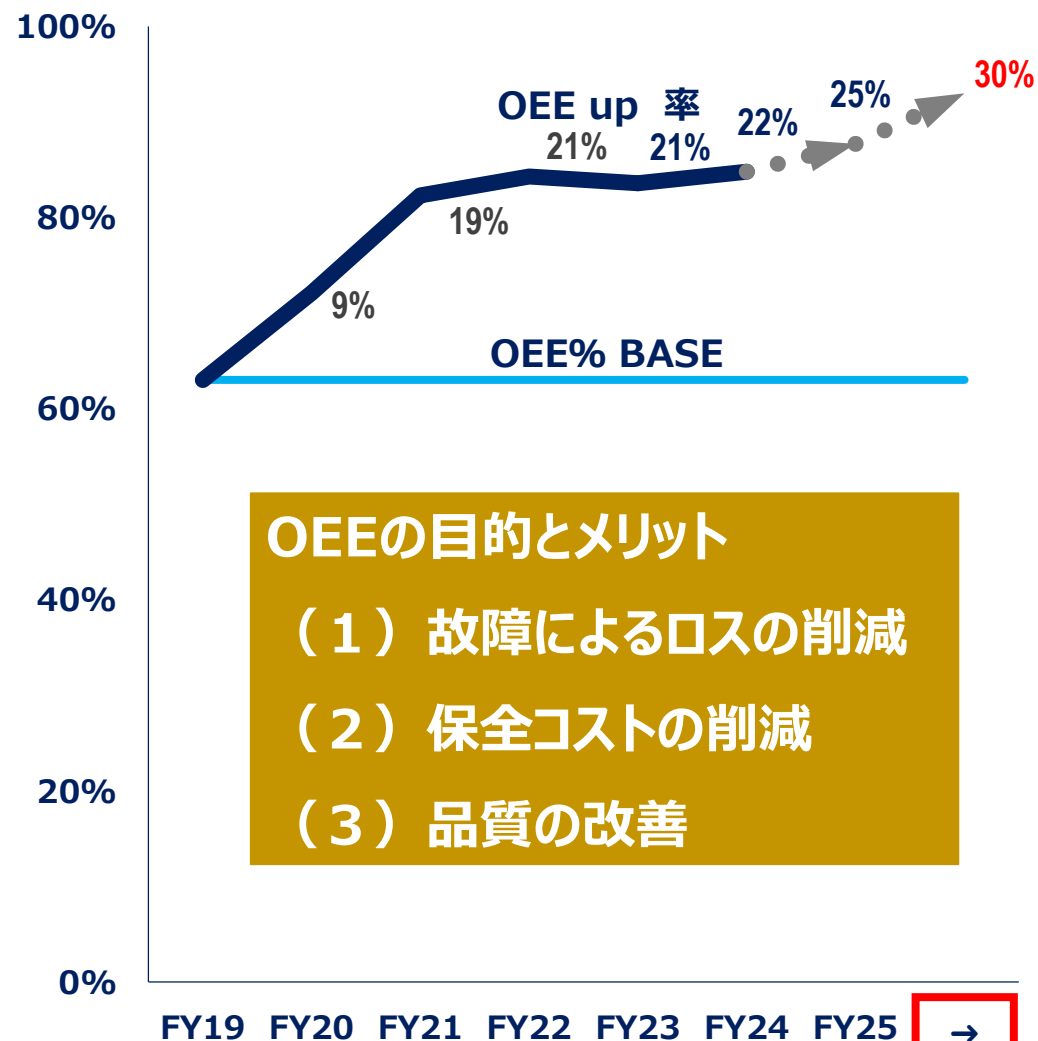
目標達成の為の取組み

事業投資スケジュール		第10次中計			第11次中計		
		2023	2024	2025	2026	2027	2028
2022～27年度 投資総額 182億円	台湾	倉庫増築	生産ライン新設				
	宮城	製造棟建設		自動倉庫建設			
			生産ライン新設				

第10次中期経営計画：OEEの向上による増員・増備なき増量対応

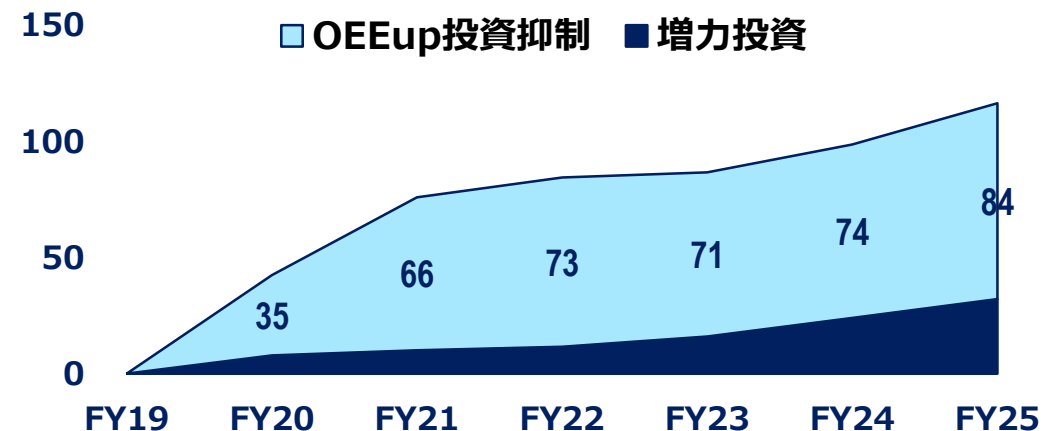
OEE 設備総合効率

月産：百万個

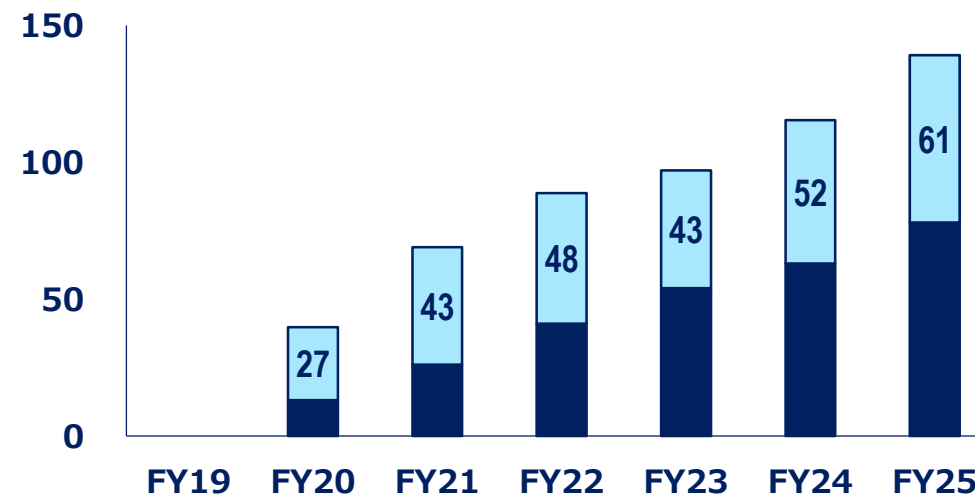


OEEの目的とメリット

- (1) 故障によるロスの削減
- (2) 保全コストの削減
- (3) 品質の改善



投資額：億円



第10次中計期間

第10次中計期間

第10次中期経営計画 成長戦略：SCM改革（スマートファクトリー取り組み）

～FY2023

人の手・判断による
オペレーション

II

- 精度の低い調達日数情報
- 工程能力と需要の乖離
- 計画変更頻発
- 生産計画の実行性悪化

■ 在庫回転月数：2.52ヶ月

DX

FY2024～(10次中計)

人手に頼らない実行性の高い計画に基づく無駄のないSCMオペレーション（スケジューラ/MES）の構築



- ・受注状況に応じた生産計画の日次更新
- ・製造進捗の即時把握
- ・高精度の納期を顧客と共有

納期改善・在庫圧縮

AIR代減少

■ 在庫回転月数：2.34ヶ月

■ 納期遵守率：20%UP

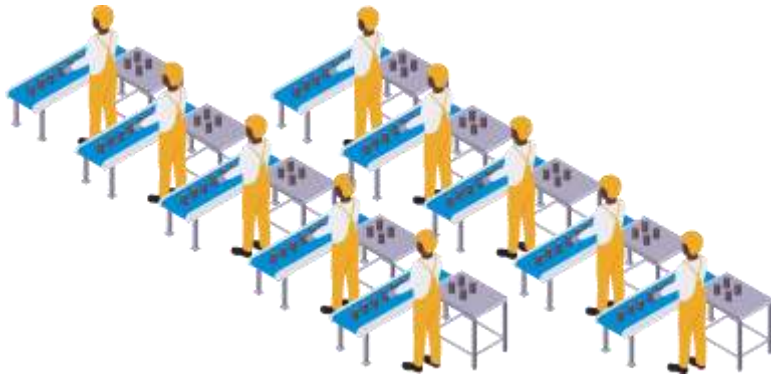
在庫圧縮 = CASH創出

第10次中期経営計画 成長戦略：外観選別の自動化（スマートファクトリー取り組み）

製品外観選別の自動 ⇒ 人の判断から「全方位外観選別機」による全数定量判断へ

～FY2023

人間の目に頼る選別



課題

検査のムラ、見逃し、多数の人員
搬送待ち発生

FY2024～(10次中計)

カメラを使用した自動選別



改善後

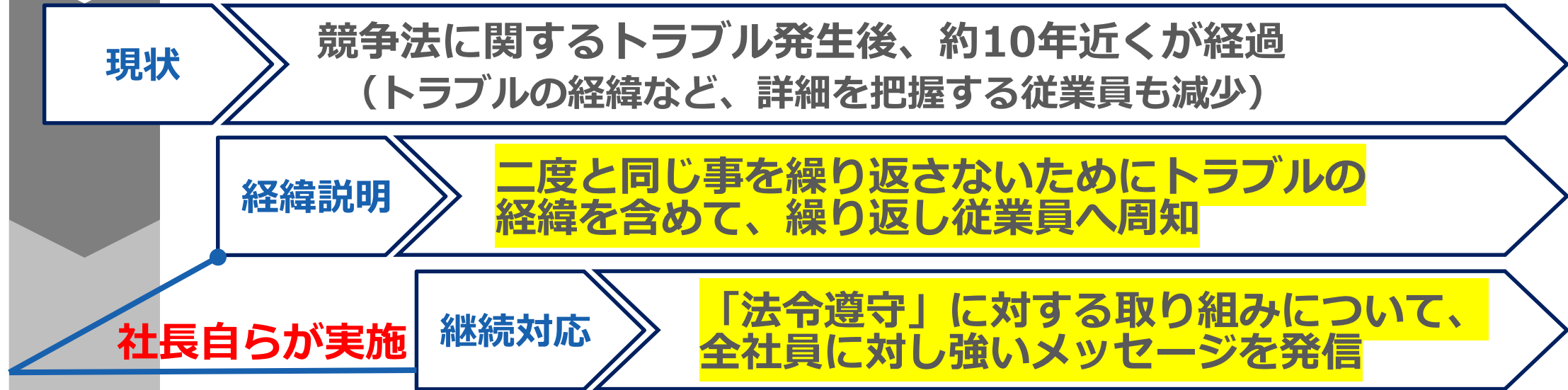
ムラ・見逃し抑制、省人化
工程間搬送の迅速化

中計累計効果

約40名～
省人化



【競争法問題に対する再発防止策の徹底】



【再発防止策】※毎期、継続実施

- 1 専門家（外部弁護士）による定期的な研修実施
- 2 法務担当部門による営業部門に対する競争法監査
- 3 競争法関連セルフチェックの実施
- 4 競争法関連誓約書の提出

Appendix

2024年3月期 製品別売上実績

コロナ禍に発生した在庫の調整が長引き、産機・ICT市場を中心に生産が低迷

単位：百万円	2023年3月期実績	2024年3月期実績	増減	増減率
アルミ電解	140,897	132,497	-8,399	-6.0%
内 導電性	21,379	21,231	-148	-0.7%
DLCAP™	4,471	5,195	+724	+16.2%
セラコン・バリスタ	3,940	3,389	-551	-13.9%
機構その他部品	4,496	3,500	-996	-22.2%
コンデンサ材料	5,731	4,615	-1,115	-19.5%
その他	2,345	1,541	-803	-34.3%
合計	161,881	150,740	-11,141	-6.9%

2025年3月期 製品別売上見通し

ハイブリッドコンデンサの生産能力増強と下期以降の産機・ICT市場の回復により前年を上回る見通し

単位：百万円	2024年 3月期実績	2025年3月期					
		上期計画	下期計画	通期予想	構成比 (通期予想)	前年比 増減	前年比 増減率
アルミ電解	132,497	58,000	77,400	135,400	88.5%	+2,902	+2.2%
内 導電性	21,231	10,100	11,700	21,800	14.2%	+568	+2.7%
DLCAP™	5,195	2,000	2,100	4,100	2.7%	-1,095	-21.1%
セラコン・バリスタ	3,389	1,400	1,700	3,100	2.0%	-289	-8.5%
機構その他部品	3,500	1,800	2,000	3,800	2.5%	+299	+8.6%
コンデンサ材料	4,615	2,700	2,600	5,300	3.5%	+684	+14.8%
その他	1,541	600	700	1,300	0.8%	-241	-15.7%
合計	150,740	66,500	86,500	153,000	100.0%	+2,259	+1.5%

第10次中期経営計画 財務目標の見直し

最終年度 目標・実績

第10次中期経営計画目標見直し（2023年5月発表数値からの見直し）

	第9次中計 最終年度実績	第10次中計 最終年度目標	第10次中計 最終年度目標見直し
売上高	1,618億円	1,700億円	1,700億円
営業利益	129億円	140億円	140億円
営業利益率	8.0 %	8.2%	8.2%
純利益	22億円	100億円	100億円
有利子負債	657億円	580億円	600億円以下
D/Eレシオ	1.6	1.0以下	1.1以下
ROE	4.8%	14.0%	15.0%
ROIC	2.1%	7.0%	7.0%

今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

〔注意事項〕

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測につきましては、本資料作成時点において入手可能な情報により当社が合理的に判断した予想であり、実際の業績は、今後、様々な要因により変動する場合があることをご承知おき下さい。

また、本資料に記載されている将来予想に関する事項についてその内容を更新し、公表する責任を負いませんのでご了承願います。

投資に関する最終決定につきましては、投資家の皆様ご自身の判断で行われますようお願い致します。

本資料の内容に基づいて投資された結果、万一、何らかの損害を被られましても、当社及び各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承願います。